第6回 医療介護連携推進会議

2022年11月16日(水)24時間ホームケアえごた

定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所

管理者:行武ちひろ



もくじ

- 1.24時間ホームケアえごたの利用状況について
- ●利用者様の介護度/年齢別
- ●利用実績
- 2. 意識調査
- ●内閣府による意識調査結果
- ●日本財団による意識調査結果結果に踏まえての事業展開について

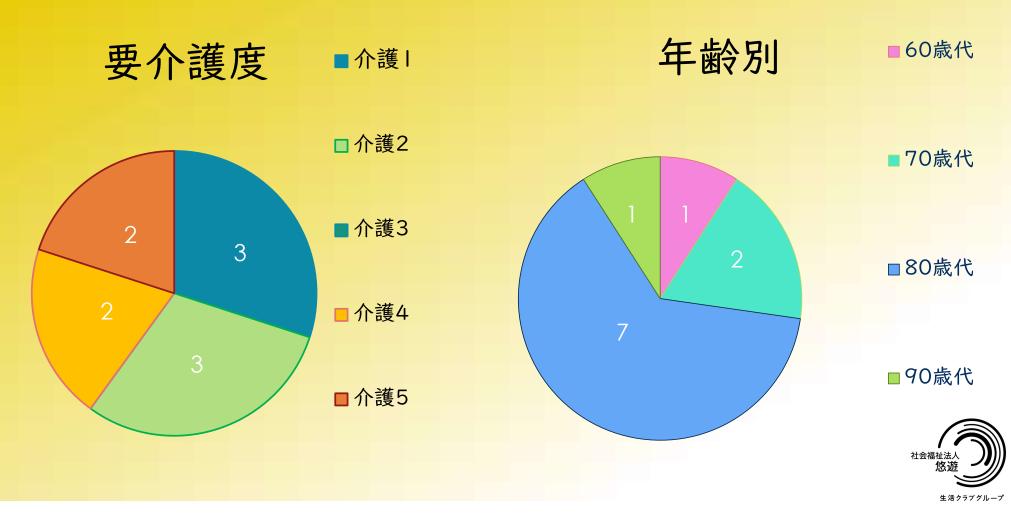




- 3・定期巡回で受けれるサービス
- 4. 定期巡回利用者様事例



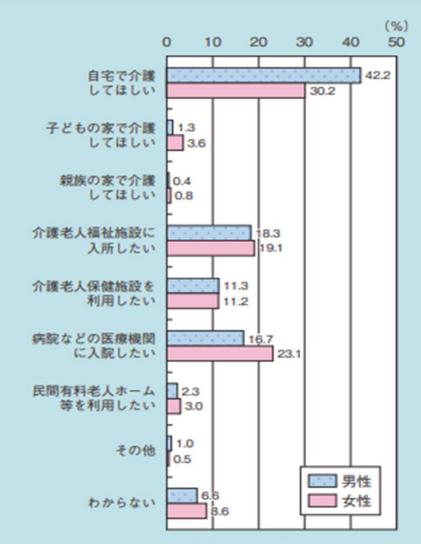
2022年 10月 ホームケアえごたの利用状況



[2022年7月~2022年10月実績]

	2022年7月 2022年8月		2022年9月	2022年10月	
利用者数	10名	9名	10名	10名	
定期訪問	708回	729回	743回	675回	
随時訪問	回	回	4回	3回	
平均介護度	3.0	2.8	2.7	2.7	

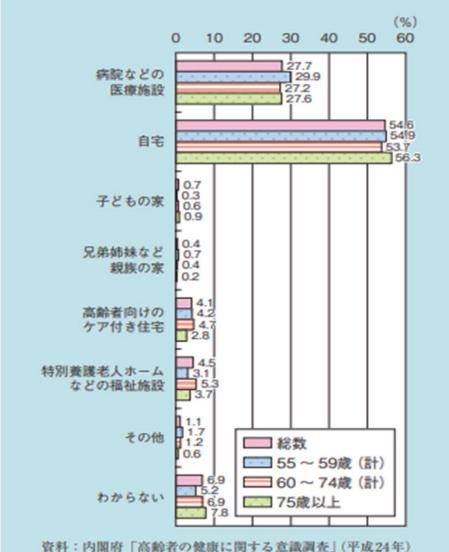
介護を受けたい場所 図1-2-3-16



資料:内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」(平成24年)

(注)対象は、全国60歳以上の男女

最期を迎えたい場所



(注)対象は、全国55歳以上の男女





Q. 「一番、望ましい場所」を選んだ理由をお答えください。

- く自宅>は自分らしくいられる、住み慣れた落ち着ける場所として選ばれている。
- 〈医療施設〉〈介護施設〉はプロに任せられる安心から選ばれている。
- 〈医療施設〉 〈介護施設〉は、家族に負担や迷惑をかけたくないという意識から選ばれている。

◆頻出キーワード (上位25位)

<自宅>

日本財団

順位	キーワード	出現頻度
1	場所	57
2	自宅	56
3	自分	37
4	思う	28
5	過ごす	26
6	住み慣れる	24
7	安心	23

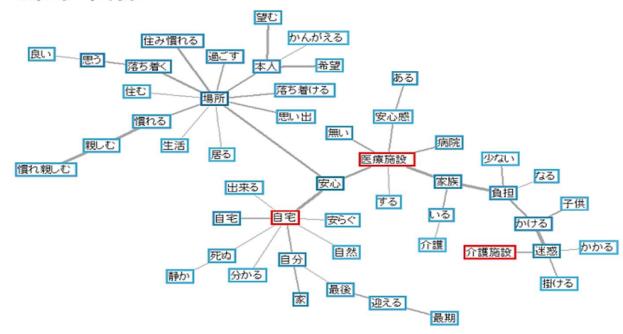
<医療施設>

順位	キーワード	出現頻度
1	家族	58
2	迷惑	40
	負担	38
4	かける	37
5	思う	34
6	病院	24
7	無い	21

<介護施設>

順位	キーワード	出現頻度
1	迷惑	7
2	かける	5
3	子供	4
4	なる	3
4	家族	3
4	最後	3
4	いる	3 3 3 3
4	施設	3

◆キーワードマップ



家族に依存せず生活できるような介護サービスの一つとして



定期巡回・随時対応サービスが必要



生活クラブグループ

THE NIPPON FOUNDATION For Social Innovation

Q.あなたは、死期が迫っているとわかったときに、人生の最期をどこで迎えたいですか。 (単一/複数回答)

- 一番、望ましい場所は、約60%の人が「自宅」を選択。
- 絶対避けたい場所は、「子の家」と「介護施設」。「介護施設」は年齢が上がるほど、避けたい割合が増える。



定期巡回で受けれるサービス

- ◎介護士による定期訪問サービス
- ◎ 随時対応サービス(繋がる安心) ボタンを押すだけのケアコール端末で24時間365日 いつでも連絡が取れ、オペレーターが 相談を受けたり必要に応じ介護士の訪問の手配や 看護師・主治医への連絡調整を行う。
- ◎随時訪問サービス(いざという時も安心)転倒・転落時等の対応、急な排泄処理
- ◎訪問看護サービス必要に応じて看護事業所との連携で服薬管理、褥瘡の処置 点滴の管理などを行います。

A様事例



定期巡回サービス導入前の状況

	要介護2 女性認知症
生活状況	独居 思い通りにならないと立腹する等あり経緯があり、家族も正直参っ ている。何でもできるといっているが、できない事も増えてきている。 (ご家族談)
導入までの経緯	・圧迫骨折し自宅での療養中は兄妹が面倒をみていたが、 介護にも限界あり、ご本人のADL低下もあり老健入所した。 入所後腹痛の訴えあり、病院でCT検査した所、 直腸癌らしき影あり。骨転移が疑われる。 詳細検査する為、老健から通院はできない為、 自宅に戻る事になり、定期巡回の導入となる

A様 定期巡回導入までの経緯

入所前	・食事が十分にとれていない ・内服薬を自身で選んで飲む為、残薬にムラがある	
入所中	・服薬管理は看護師にて実施・職員の見守りがあるため生活リズムに問題なし	
退館に向けての課題	・服薬の管理(自己管理は課題が残る)・独居生活がどこまでご自身で可能か不明・検査結果により一時帰宅になる場合もあり・健康面の急激な変化に医療の目が必要・食事面で食事量も把握が難しい	
退館後	定期巡回導入 ・服薬管理は看護と連携し確実に服用確認 ・看護師による病状の管理 ・食事が出来ているか配食弁当を開始し 食事量を把握 ・可動域の把握とフォロー ・自宅へは一時的か継続かにもフォローできる体制	社



定期巡回 導入効果

- ・ヘルパーによる定期的な訪問で服薬の見守り で確実に服用きるようになった
- ・定期的な訪問によりご本人が出来ない生活の困りごとに対応し、生活が維持でき在宅生活が継続できている
- ・看護介護の連携で体調の変化をICTを通じ 服薬管理や変更に対応することができ腰痛や嘔吐等の 急な体調変化も連絡がとれる体制でご本人の安心感を 得られている
- ・ご家族・CMもICTを活用し、近況を把握できる為 ご本人の状態をいち早く確認できる



B様事例







	月	火	水	木	金	±	日
3:00	排泄介助	• 安否確認					
7:40		食事提供• 【•服薬介助	モーニング				
		訪問	入浴				
11:00	排泄介助•	食事提供•	服薬介助				
			リハビリ	看護			
15:30	排泄介助•	食事提供					
19:40	排泄介助• 服薬介助	口腔ケア・	ナイトケア				\



尿道カテーテル挿入により3時サービス回数の見直し 服薬介助から服薬確認に変更し出来ることを実現する 今後、落薬が無いことを確認し、水曜11時ケアの見直しが出来るか検討



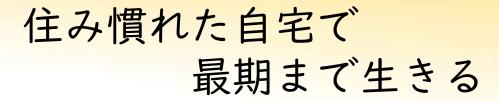
「定期巡回」と「看護連携」

- ・自宅でも看護と介護の連携により 一人ではないと安心でき、 同時に自立支援につなげていく
- ・定期巡回の卒業にむけて日常リハビリができる
- ・体調変化による入院や、再び在宅へ 戻る際もスムーズに移行できる
- ·ICTや電話などの活用とソーシャルメディアで各事業所とも密に連携する事で、時間差無く 状況把握ができる





ご清聴、ありがとうございました





次回の介護・医療連携推進会議は 2023年4月予定です



3月中に案内状を送らせていただきます。 よろしくお願い申し上げます。

